



青少年のみなさまへ

護國のみたまをまつる心

富山縣護國神社の文章は、「**歴史的仮名遣ひ**」を使用してをります。
 僧・契沖を始め多くの國学者等が永い年月をかけて積み上げ、森鷗外・芥川龍之介・山田孝雄博士（富山市名誉市民）等の努力によつて、日本語標記の基準とされてきた仮名遣ひを、敗戦といふ混乱期に「現代仮名遣ひ」に変へられてしまひました。
 どこの國でも文化の核は、その民族が育ててきた**《言葉》**を中心にしてゐます。日本語の伝統を守る心は、日本の美風を守る心につながるものであります。
 戦後、GHQの占領政策などにより、ほとんど検討しないままに、文法的にも欠陥の多い「現代仮名遣ひ」に変へてしまつたことは、**《國語の破壊》**を示すものであり、とても悲しむことであります。
 昭和二十年以前の文学作品を「古典」としないためにも、「**歴史的仮名遣ひ**」を使用いたしませう。

「護國のみたま」をまつる心

青少年のみなさま

富山縣護國神社は、富山県出身の二八六八〇柱の御英靈をおまつりしてゐる神社です。
 御英靈といふのは、この日本といふ國を護るために戦争で散華された方々の御靈（みたま）、すなはち、「護國のみたま」のことです。

日本は、最初の天皇である神武天皇から現在の天皇陛下までの二六〇〇年以上にわたり、天皇陛下とともに歴史を刻み、世界で最も長い歴史を持つ國となつてゐます（西暦キリスト歴二〇一〇年は、日本の暦皇紀二六七〇年になります）。その長い歴史の中で、特に近代になつて、外國から日本を護るための幾多の激しい戦争がありました。そして、数多くの先人たちが、強い愛國心を抱いて勇敢に戦つて亡くなつてをられます。

かつて、アジアのほとんどの國は、イギリスやフランスといった欧米諸國の植民地として虐げられてきました。アフリカの黒人たちにいたつては遠くアメリカ大陸まで奴隸として連れ去られていきました。

そのやうな時代にあつて、日本は列強に並ぶための努力を重ね、毅然として独立を貫いてきました。しかし、欧米諸國は自分たちに並んで國力をつけやうとする日本を危険視して、敢へて戦争をするやうに仕掛けてきました。

天皇陛下は、どのやうな状況にあつても常に國民の安寧と平和を望んでこられ、そのみこころは次の御製によくあらはれてゐます。

明治天皇　よもの海　みなはらからと　思ふ世に　など波風の　たちさわぐらむ

（世界中皆兄弟姉妹親戚とお互ひに思ひあふ世であれば、どうして波風が立ち騒ぐやうな争ひ事が起こらうか）

大正天皇　浪風は　立ちさはげども　四方の海　つひにしづまる　時もきぬべし

（今は波風が立ち騒ぐやうに平和が乱れてゐるけれども、そのうちに必ず世界中が平和になるときも来るのだ）

昭和天皇　天地の　神にぞ祈る　朝なぎの　海のごとくに　波立たぬ世を

（朝なぎの海のごとくに波の立たない平和な世を、天地の神にひたすら祈るばかりである）

そのやうな天皇陛下のみこころに反して、アメリカ、イギリス、シナ〔中國〕、オランダなどの國の執拗な挑発（ABC包圍網）に、やむなく戦争へと踏み出しました。そして、アメリカの圧倒的な國力の前に敗れてしまひました。

いつしか平和な時代が来ることを望んで、國のためにたくさんの方々が尊い命を捧げられました。今のこの平和は、そのやうな先人たちの崇高な精神の上にあることを忘れてはいけません。日本を愛し、未来の日本のために尊い命を捧げられた「護國のみたま」に、感謝のまことをもつておまもりませう。